

世界のがんの 5.6%は糖尿病と肥満が原因

糖尿病と肥満指数 (BMI) 高値はいくつかのがんのリスク上昇と関連することが分かっているが、これらは世界のほとんどの国で年々増え続けている。本研究では、糖尿病および肥満によるがんのリスクについて検討した。

2002 年の世界 175 か国における糖尿病と肥満 (肥満指数<BMI>25 以上) の有病率に関するデータと、糖尿病や肥満によるがんの相対リスクに関するデータを収集し、2012 年における 12 種類のがんの人口寄与割合を推算した。その結果、2012 年に新たに発症したがんのうち 5.6%は糖尿病と肥満の両方が原因となり、件数としては 79 万 2,600 件に達した。このうち肝臓がんの 24.5%、子宮内膜がんの 38.4%が糖尿病や肥満と関連していた。また、肥満では、糖尿病よりもがんの発症が 2 倍高かった。糖尿病に関連したがんの 26.1%と肥満に関連したがんの 31.9%は、1980~2002 年にかけて糖尿病や肥満の有病率が増加したことによるものと考えられた。

糖尿病や肥満が原因となって発症するがんが 5.6%と、かなりの割合であることが判明した。今後、糖尿病や肥満が増加していくことが推測されているため、これらの疾患の予防とスクリーニング対策の強化に力を注ぐべきである。

出典 : Lancet. Diabetes and endocrinology. 2017 Nov 28; pii: S2213-8587(17)30366-2